

<金標準、年始から 17.5%の上昇を行い「行き過ぎかた熱狂」・・・>



(出所：オアシス)

世界市場がグッドフライデーの休日に入った中で、大阪取引所の金標準先物は一時 287 円高の 10976 円まで反発を見せている。特に世界の金価格は、年始からドル建てが 7.5%の上昇、ポンド建ては 8.1%の上昇、ユーロ建てで 10.2%の上昇を見せているが、円建ては 17.5%の驚異的な上昇を行っている。特に日銀金融政策決定会合で 2013 年に開始した大規模緩和策でマイナス金利を解除し事実上終了したが、しかし為替市場では神田財務官が指摘する様にファundamentalを無視した投機的な円安で一時 151.96 円まで円安・ドル高が進むなど円建て金価格をサポートしている。

しかし介入警戒感も強まる中で、週末には記載した様に世界的な休場の中で金標準先物は一日で 287 円高を演じるなど、根拠なき熱狂の値動きを見せている。また PCE デフレーターは、パウエル FRB 議長の発言でも「予想通りの結果」と示唆されている。そのため世界的に円建て価格は行き過ぎた動きに見え、目先の調整には注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が切り上げ、**シグナル**も上昇している。また RCI では**短期**は切り下げ、**長期**は維持した状態であり、オシレーターは高値追いを示唆している。ただ日足と移動平均線と乖離が拡大しており調整安に注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,390,000 円(2024 年 4 月 1 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2024 年 4 月 1 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>